

園の取り組み事例

大阪市立 山王保育所(大阪府・公設置民営)

保護者に伝わりやすく、 園内研修・業務の簡素化を兼ねた ドキュメンテーションを実現

取り組みの ポイント

近年急増する外国籍の保護者にも伝わりやすいように、動画配信を取り入れたドキュメンテーションを作成。子どもの育ちを捉えて発信する作成過程を、園内研修と兼ねる。

1年間を通して、クラスごとに1日に2組限定で保護者の保育参加を受け入れ、保育者の思いや子どもの姿を共有する。

だれに対しても伝わりやすいドキュメンテーションを追求

外国籍の子どもが増え 保護者との意思疎通が課題に

大阪市立山王保育所は1963年に開園後、約半世紀がたった2012年より社会福祉法人白鳩会が委託運営を行っています。同園では近年、中国やベトナムを中心とした外国籍の子どもが急増し、全園児の35%以上に達しています。外国籍の子どもは、日本語をある程度話せる子どももいれば、来日したばかりの子どももいるなど、状況はさまざまです。言葉でのコミュニケーションが難しい場合でも、子ども同士はすぐに仲よくなり、保育者もジェスチャーなどを交えて子どもと意思疎通を図っているため、保育に大きな支障はありません。

一方で、難しさを感じているのが保護者とのコミュニケーションです。保護者の中には日本語をほとんど話せない、あるいは会話はできても文字が読めない人もいます。そのため、おたよりや口頭で園の予定を説明しても、伝わらないことがよくありました。例えば遠足では、自国にお弁当の

お話しくださった先生方



園長

武藤英嗣朗先生



主任

松田沙弓先生



副主任

竹内由喜恵先生

文化がないため、お弁当箱の中にお菓子だけを詰めて登園してくる子どももいました。そうしたことから、同園では中国籍とベトナム籍の保育者をそれぞれ採用。保護者との会話の通訳や電話連絡の代行をお願いして、意思疎通を図っています。

活字離れなども踏まえて 情報発信のあり方を再考

それでも日常的なコミュニケーションの取りづ

